

日本地域学会ニューズレター

平成 11 年 no.2

平成 11 年 8 月 1 日

目 次

I.	日本地域学会第 36 回年次大会 (平成 11 年 10 月 2-3 日)	...	2
II.	平成 11 年度日本地域学会総会 (平成 11 年 10 月 2 日)	...	2
III.	会員の移動	...	3
IV.	The 16th Pacific Regional Science Conference について	...	4
V.	国際地域学会関連国際大会の案内	...	5
	第 39 回ヨーロッパ地域学会大会		
	第 46 回北米地域学会大会		
	国際地域学会南アフリカシンポジウム		
	第 6 回国際地域学会世界大会		
	第 6 回 PRSCO Summer Institute		
VI.	会員通信	...	5
	1. 福地崇生 会員, 平成 11 年度外務大臣表彰を受ける		
	2. 朝日大学大学院経営学研究科情報管理学専攻の紹介		
VII.	委員会報告	...	7
	学会賞選考委員会		
	第 36 回年次大会準備委員会からのお知らせ	...	8
	1. 学会エクスカージョンの案内	...	8
	2. 閉会式後の空港直行バス	...	8
	3. 会場略図と連絡先	...	8
	4. 市内交通路線図	...	9
	5. 宿泊施設	...	10
	『地域学研究』バックナンバー申込書	...	11
	正会員入会申込書	...	12

発行: 日本地域学会広報委員会
気附 筑波大学 農林工学系 氷鮑(ひがの)研究室
〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1
0298-53-7221(tel,fax)
sec@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp
<http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/>

I. 日本地域学会第36回年次大会（平成11年10月2-3日）

平成11年度(1999年度)日本地域学会第36回年次大会(実行委員長 有吉範敏 熊本大学教授 日本地域学会理事)が、熊本大学法学部(黒髪北キャンパス)において下記要領で開催されます。

記

開催校: 熊本大学

開催日: 1999年10月2日(土)-3日(日)

会場: 熊本大学 法学部

860-8555 熊本市黒髪 2-40-1

tel.090-9562-1957

fax.096-342-2345

参加費: 4,000円

懇親会費: 4,000円*

写真代: 1,000円*

(*希望者のみ)

なお、昼食は各自学食をご利用下さい。

以上

ここに当日のプログラムが同封されていますので、会員諸賢におかれましては同封の官製はがきで必要事項に回答のうえ(締切 9月17日(金)),奮って参加いただけますようご案内申し上げます。

初日(10月2日(土))の午後は、「ネオ・ルーラリズム時代の田園政策」をテーマとして例年どおり一般公開シンポジウムが開催されますが、今年はこのシンポジウムのテーマと実質的にリンクするかたちで大会前日(1日(金))に阿蘇地域へのエクスカッションが企画されています。例年より1日の余裕をもってぜひこのエクスカッションから参加いただけますよう旅行計画を早めにおたて下さい。

本ニューズレター, pp.8-10に,

- (1) エクスカッションの詳しい案内,
- (2) 2日目(10月3日(日))閉会式終了後(16:35)の空港直行バス予約案内
- (3) 会場略図と連絡先
- (4) 市内交通路線図
- (5) 宿泊施設予約案内

が掲載されていますので、同封の別紙をご利用のうえご希望の項目について各自ご予約下さい(締切 8月27日(金)。なお、同じ内容が同封されている

プログラムにも掲載されています)。

また、初日(10月2日(土))には平成11年度総会および平成11年度日本地域学会学会賞授与式が行なわれますので、ご出席いただけますよう重ねてお願い申し上げます。

II. 平成11年度日本地域学会総会(平成11年10月2日)

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会 会長

福岡克也

本年度総会を下記要領で開催いたしますのでご出席下さい。なお、欠席される場合には同封の官製はがきにて委任状をご提出下さい。

記

平成11年度日本地域学会総会次第

日時: 平成11年10月2日(土)13:20-14:20

場所: 熊本大学法学部 法学部棟 2F(A1教室)

860-8555 熊本市黒髪 2-40-1

tel.090-9562-1957

fax.096-342-2345

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議題
 - 1) 新入会員・退会会員の承認
 - 2) 平成10年度収支決算の承認
 - 3) 平成11年度収支予算の承認
 - 4) 第37回(2000年)年次大会の開催地、開催校の承認
 - 5) 第38回(2001年)年次大会の開催地、開催校等の取り扱いの承認
 - 6) 国際地域学会(RSAI) 環太平洋地域学会機構(PRSCO) 会則の批准
 - 7) その他
5. 報告
 - 1) 新入会員キャンペーンの継続

- 2) 『地域学研究(第30巻)』編集委員会の構成
 - 3) 日本地域学会『地域学研究』審査規程
 - 4) 日本地域学会『地域学研究』執筆要項
 - 5) 『地域学研究(第29巻)』の編集
 - 6) *Studies in Regional Science* Vol.28, No.2 および vol.29, No.2 の編集
 - 7) RSAI の動向
 - 8) PRSCO の動向
 - 9) その他
6. 学会賞授与式
- 1) 選考経過報告
 - 2) 学会賞授与
功績賞: 木村吉男; 論文賞: 徳永澄憲; 奨励賞: 森島隆晴, 川村和美
 - 3) 受賞者挨拶
7. その他
8. 閉会の辞
- 以上

III. 会員の移動

ニューズレター平成10年no.3以降の理事会(平成10年度第7回, 平成11年期第1回, および平成11年度第2-3回)で手続きを進めることを承認している新入会員と退会希望者は次のとおりです。

新入会員

正会員

池田康弘(いけだ やすひろ)
 佐藤誠(さとう まこと)
 富本國光(とみもと くにみつ)
 内藤徹(ないとう とおる)
 細江守紀(ほそえ もりき)
 李友炯(Lee, Woohyung)
 尹性二(Yoon, Sung Yee)
 小林慎太郎(こばやし しんたろう)
 小祝慶紀(こいわい ひろのり)
 桜田一之(さくらだ かずゆき)
 松波淳也(まつなみ じゅんや)

山中守(やまなか まもる)
 飯田太郎(いいた たろう)
 坂本淳二(さかもと じゅんじ)
 石田東生(いしだ はるお)
 山崎 朗(やまさき あきら)
 上遠野武司(かとうの たけし)
 長谷川洋一(はせがわ よういち)
 Pang, Xiaojin(ぱん ぎょうしん)
 山口 浩(やまぐち ひろし)
 中村 仁志(なかむら さとし)
 Shin, Cheol-ho(しん ちよるほ)
 福井 秀夫(ふくい ひでお)
 梶田 敬仁(かじた たかひと)
 唐 成(とう せい)
 吉田 博之(よしだ ひろゆき)
 佐藤 秀樹(さとう ひでき)
 吉川 勝広(よしかわ まさひろ)
 姜 平(じゃん ぴん)
 杉浦 勝章(すぎうら かつあき)
 立川 賢二(たつかわ けんじ)
 山田 幸一郎(やまだ こういちろう)
 山岸 洋明(やまぎし ひろあき)
 朝日ちさと(あさひ ちさと)
 八ツ橋 康博(やつはし やすひろ)
 矢田 俊文(やだ としふみ)
 伊藤 佳世(いとう かよ)
 今泉 博国(いまいずみ ひろくに)
 樋口 洋祐(ひぐち ようすけ)
 日下部 義博(くさかべ よしひろ)
 大内田 康徳(おおうちだ やすのり)
 大山 佳三(おおやま けいぞう)
 安達秀明(あだち ひであき)
 石井吉春(いしい よしはる)
 太田 和博(おおた かずひろ)
 大杉 卓三(おおすぎ たくぞう)
 Zhai, Xiao-gang(てき しょうごう)
 顧 林生(ぐりんせん)
 栗林 徹(くりばやし とおる)
 呉 江濱(う じゃんぴん)
 佐藤恵介(さとう けいすけ)
 高橋 功(たかはし いさお)
 陳 恵馨(ちえん ふえうしん)
 董 劍平(とん じゃんぴん)

戸田明人 (とえん あきひと)
羅 洲夢 (な じゅもん)
橋本哲美 (はしもと てつみ)
平田純一 (ひらた じゅんいち)
益子将明 (ますこ まさあき)
光多長温 (みつた ながはる)
持立真奈美 (もちだて まなみ)
山崎 宏 (やまざき ひろし)
湯谷 佐知男 (ゆたに さちお)
柳 基晶 (ようき じょん)

退会会員

正会員

大沢隆夫

西崎一郎

金田昌司

原納一雅

HWANG, Byoung-gon

榊原 胖夫

鈴木 博志

陸 偉

千歳壽一

土屋貴裕

大平号声

黒田達朗

IV. The 16th Pacific Regional Science Conference について

豊橋技術科学大学人文・社会工学系
宮田 譲

1999年7月12日から7月16日まで、韓国ソウル市にあるの教育文化会館で The 16th Pacific Regional Science Conference (以下、大会と略記) が開催された。筆者も大会の末席に参加した関係から、簡単に会議の状況を報告しておきたいと思う。

教育文化会館はソウル市の南部に位置し、郊外ではないものの、ソウル市中心部からはやや離れ、交通には若干不便という印象であった。しかし、会議施設、スポーツ施設、ホテルの complex であり、国際会議を開催するには最適な施設という感じであった。

7月12日は一般参加者の registration があったが、その他には午前中に RSAI Council Meeting,

正午頃からは council members の lunch, 午後からは PRSCO Council Meeting が開催された。筆者も本年度から council member になったため、午後からの会議には参加した。主要な議題は “The Constitution of the Pacific Regional Science Conference Organization” の承認と、2001年に予定されている第17回 PRSCO の予定であった。PRSCO17 は2001年の6月30日から7月4日まで、アメリカオレゴン州ポートランド市で開催されることが決定した。

会議の後、夜7時から大会の開催を祝う Welcome Dinner Party が開かれ、多数の参加者があった。今回の参加者は150名を越えるものと思われ、日本からの参加者は地元韓国に次ぐ数で、30名を越えたものと思われる。

7月13日からは session の開始で、最初に今回の大会実行委員長であるソウル国立大学の Sam Ock Park 教授による開会の挨拶があった。その後 Plenary Session が行われ、PRSCO President の Jacques Poot 教授による “Can Government Influence the Long-run Growth Rate?: Results from a Meta-analytic Study”, および RSAI President の河野博忠教授による “Recent International Finance and the Formation of Japanese Economic Policy” の報告がなされた。その後、一般参加者による presentation が各会場に分かれて行われた。

今回の大会では “Future of Northeast Asian Cities and the Strategic Role of Korean Cities” がメインタイトルとなり、special session が数多く開催された。日本からは四日市大学の伊藤達男教授が “Making World Cities in Japan” と題して、招待講演を行った。

一般 session の内容は紙面の関係もあり詳細を述べることはできないが、地域経済分析、立地論、経済地理、交通、地域環境、地域情報などの従来型の分野に加え、non-linear dynamics に関する session が2つあり、新しい潮流を見せていた。日本からの参加者はこの分野に積極的であり、浅田統一郎先生、松本昭夫先生、小野崎保先生などが発表を行い、計7編の発表のうち6編が日本人によるものであった。

7月15日には午前中の session のあと、午後からは excursion が催された。3つのコースが用意され、第1グループは Kyongbokkung Palace & Se-

cret Garden の見学, 第2グループは Samsung 電機
の工場見学, 第3グループは Bundang New Town
の見学であった。またこの日の夜には実質的な farewell
dinner party が行われ, 韓国の伝統的な音楽と舞踏
が披露され, 参加者一同大いに堪能した。

翌16日は最終日であり, 午前中の session に引
き続き closing ceremony と farewell lunch が催さ
れ, 5日間の親交の別れを惜しんだ。この日の夜に
は公式行事は何もなかったが, 日本地域学会事務局
の取り計らいで, 日本人参加者による private party
が開かれた。

以上が大会の大まかな報告であるが, 韓国経済
の印象を若干付け加えておこう。周知のように昨年
度韓国は大きな対外債務が問題となり, 深刻な経済
危機を招き, 大会の開催を危ぶむ声も聞かれた。筆
者も日本以上の深刻な経済不況を想像して韓国入り
したが, 思いのほかソウルは活気に満ちていた。ソ
ウルの道路は東京などより余裕を持って建設されて
おり, 片道5車線, 6車線の道路も珍しくはない。
その道路が深夜でも渋滞となるほど, 人出は多く圧
倒されるものであった。また大会の運営も Sam Ock
Park 教授を始めとする local organizing committee
の方々の尽力により, 8つの機関がスポンサーとな
り, これまでの大会以上の hospitality であった。
ここに local organizing committee の方々への感謝
の意を表しつつ, 筆を置きたいと思う。

V. 国際地域学会関連国際大会の案内

第39回ヨーロッパ地域学会大会

日時: August 23-27, 1999

場所: Dublin, Ireland

<http://www.ucd.ie/~economic/rsai/>

第46回北米地域学会大会

日時: November 11-14, 1999

場所: Montreal, Quebec, Canada

<http://www.geog.umontreal.ca/rsai99/>

国際地域学会南アフリカシンポジウム

日時: January 24-26, 2000

場所: Port Elisabeth, South Africa

問合: 日本地域学会事務局長

第6回国際地域学会世界大会

日時: May 16-20, 2000

場所: Lugano, Switzerland

発表応募締切: 1999年12月31日

<http://www.lu.unisi.ch/wc2000-rsai/>

第6回 PRSCO Summer Institute

日時: June 14-16, 2000

場所: Mexico City, Mexico

発表応募締切: March 15, 2000

<http://prSCO.agbi.tsukuba.ac.jp/>

[CONFERENCE/sum_6th_first.html](http://prSCO.agbi.tsukuba.ac.jp/CONFERENCE/sum_6th_first.html)

VI. 会員通信

1. 福地崇生 会員, 平成11年度外務大臣表彰 を受ける

既にご存知の方もおられるかと思いますが, 福
地崇生 会員(朝日大学教授, 元会長, 現理事)が,
去る7月8日に日外務省飯倉公館において平成11年
度外務大臣表彰を受けられましたのでお知らせしま
す。これは, 「国際技術協力の推進に尽力されもつ
てわが国と諸外国との有効親善に寄与しその功績顕
著」であると認められた方を表彰するものです。福
地崇生 会員は, 過去十数年で30回余メキシコ, イ
ンドネシア, ブラジルへ出張しモデル作成の技術移
転につとめ, 現在はインドネシア国家開発庁(BAP-
PENAS)とブラジル予算企画省応用経済研究所(IPEA)
への技術協力の国内支援委員会委員長として活躍し
ておられ本表彰を受けられました。おめでとうございます。

2. 朝日大学大学院経営学研究科情報管理学専 攻の紹介

和泉 潤

朝日大学は, 長良川を境とした岐阜市の西隣
で, 長良川と揖斐川に挟まれた輪中地帯に位置して
いる。河川の氾濫から家屋・農地を守るために周囲
に堤防を巡らす昔人の知恵により, 穀倉地帯として
発展してきた豊かな地域である。輪中はオランダで
はポルダーと同じような堤防のシステムで, 三角州
に位置するバングラデシュのような洪水常襲地域で

は、輪中（ポルダー）としての整備により、毎年の洪水からの被害を免れるようになってきた。大学の立地する穂積町でも、治山・治水の整備進展により、しばらく洪水の被害はない。このような豊かな田園地帯の真ん中に大学は立地しており、教育・研究環境としては良好な場所といえるのではないかと思われる。

朝日大学大学院経営学研究科は、情報管理学専攻一つだけの大学院である。産業や企業経営に情報科学技術を適切に応用できる実践的で創造的な能力をもった人材育成を目的に平成7年に設立された学際的な専攻であり、平成11年現在、博士後期課程の完成年次まで進行している。博士前期課程の専攻には、産業情報分野と経営情報分野の二つがあり、前者にはカナダ籍の外国人教員を含めて7名、後者は8名の計15名の陣容である。

この15名の中に地域学会の会員が3名おり、筆者以外に、地域学会の重鎮である福地崇生先生と若手の研究者である板谷雄二先生が教育・研究を行っている。ゼミのテーマは、福地先生は「経済予測」、板谷先生は「オペレーションズ・リサーチ」、筆者は「都市システム分析」であり、現在の研究内容は大学院の資料から取り上げてみると次のようになる。

- ・福地崇生先生：日本経済の計量分析と予測，地域経済の計量分析と予測，開発途上国の計量分析と予測
- ・板谷雄二先生：社会システムのモデル化に関する研究，システムの動的分析に関する研究，コンピュータ援用システムに関する研究
- ・和泉 潤：開発途上国のシステムダイナミクス，産業システムの空間構成と土地利用，情報ネットワークのまちづくりに与える影響に関する事例研究

情報管理学専攻という学際的手分野の大学院で、地域学会会員が1/5であることは、高い方の比率ではなかろうか。したがって、大学院の博士前期課程・同後期課程のゼミなどで共同指導を行う場合、同じペースで議論を闘わせることが可能であり、そこから触発されて新しい考え方も生まれてくる機会に恵まれているとも言える。特に福地先生から重要な意見が出てくる場合が多く、非常に役に立っている。

本大学院は、いわゆる設置審の14条特例もとで設立された大学院であり、社会人の勉学を容易にするために、昼夜開講およびセメスター制を導入した年2回（4月および10月）の入学を採用している。

昼夜開講は昼間ばかりでなく夜間にも講義などを開講する制度であり、本大学院では昼間（とはいえ16時30分からになるが）にゼミを置き、夜間（18時30分～20時）に講義を行っている。こうすることで、社会人の学生は、もっぱら夜間に講義を受けることで単位を修得でき、ゼミは週1回のペースで開催されるので、業務を続けながら勉学することができる。一般の大学院生も、この昼夜開講により昼間の時間を有効に活用ことができ、学修、研究を効果的に進めている。しかしながら、教育・研究環境として良好な大学の立地も、こと夜間の交通になると不便な状況にあり、多くの大学院生は自家用車で通学しているのが現状である。

このような状況を改善するために、名古屋駅前にサテライト教室を設置し、穂積のキャンパスとテレビ会議システムを使用して遠隔講義を行っている。これは、教員が名古屋で講義し、受講生は名古屋と穂積キャンパスで受講する、あるいはその逆であり、教員および受講生の都合を考えた効果的な講義形態となっている。現在、博士後期課程の大学院生が、情報管理学専攻にふさわしく、このテレビ会議システムの遠隔授業への適用に関する博士論文をまとめている最中である。

学部の講義も担当している教員の都合からいえば、夜間の講義は週1回といえどもかなりきついものとなっている。これは筆者だけの感想かも知れないが、学部の昼間の講義、大学院の夜間の講義と1日に続けて実施すると、夜間の講義終了時には、やはり大きな疲れを感じるこの頃である。

また、年2回の入学は、少なくとも年2回は入学試験を行うことであり、本大学院の場合には、博士前期課程と博士後期課程の入学試験を計4回行うことになり、さらには前期課程には推薦入学試験、留学生の特別試験などがあり、これに学部の入学試験を合わせると、大学院の担当教員は年中、いずれかの入学試験に関係しているといつてよい状況である。今、各地で実施されるようになってきた、アドミッション・オフィスによる入学試験を先取りする形で

行っているといっただろう。

本大学院の博士前期課程の定員は1学年20名、後期課程の定員は1学年3名であり、指導する教員は、あまり大きな片寄りなく、多くとも5人くらいの大学院生を抱えているだけである。したがって、かなり密着した指導が可能になるが、学部との掛け持ちから、なかなかそうはいかない現状にある。そこで、卒業論文を抱えた学部学生を大学院のゼミと同時に行う一部教員もでている。

設立から5年目を迎え、来年の3月には順調にいけば第1号の博士が誕生する若い大学院であるが、かなり濃密な教育・研究が行われており、その一端が全国大会での発表、「地域学研究」への掲載となって表れている。本大学院は、西濃地方と呼ばれている田園地帯に位置しているとはいえ、名古屋駅から最寄り駅である穂積駅まではJR東海道線の快速で26分の距離にあり、穂積駅から大学まで路線バスで7分の、昼間では交通の利便性の高い場所に立地しているので、会員各位の来学を期待するところである。

VII. 委員会報告

平成11年度(第8回)日本地域学会学会賞

去る4月18日に開催された学会賞選考委員会(委員長 藤岡明房 敬愛大学 教授)では、慎重審議のうえ下記の会員の方々に学会賞を授与することを決定しましたので報告いたします。

奨励賞

森島隆晴(敬愛大学 助教授)

主題: A Wealth Preference-Related Explanation for Creation and Collapse of a Rational Asset in the Land Market

川村和美((財)環日本海経済研究所 研究員)

主題: Optimum Transportation Program for Northeast China Using Tuman Area Sea Ports: An Assessment of International Cooperation Based on the Spirit of Le Chatelier Principle

論文賞

徳永濟憲(名古屋大学 教授)

主題: A Residential Land Use Model with a General Landownership: Existence and Uniqueness of Equilibrium

功績賞

木村吉男(中京大学 教授)

なお、授与式は先にご案内いたしました今年度総会の席上とりおこなわれます。